



—女も男も ともに輝く 社会へ—



絵：おくまつ りん
(7歳・野底小学校)

■ 石垣市男女共同参画推進条例施行記念メッセージ募集 ■
「ありがとう 心からのラブレター」応募作品 (絵・メッセージ) から

□うれしいことば「ありがとう」、
「ありがとう」ってことばは、気持ちいいな。ほめられたとき、手
つだってくれたとき、いきもち。みんな みんな「ありがとう」□
ちばな りく (7歳・野底小学校)

発行／石垣市総務部広報広聴課 男女共同参画係

〒907-8501 石垣市美崎町14番地

0980-82-9911 (代)

0980-82-1243 (直)

No. 30

2009年 秋季号

題字：城間美喜子

～男女共同参画行政 2009～

石垣市男女共同参画推進条例施行記念

女（みーどうん）男（びぎどうん）も ともに輝いて

シンポジウム

テーマ 今こそワーク・ライフ・バランス
～家庭・職場・地域社会において～



パネリスト：宮良 健（中学校教諭）・花谷友子（農業）・城間美喜子（真喜良小PTA 会長）
下地寛正（経営者）

コーディネーター 加藤伴子（自営業）

と き：平成21年10月7日（水）午後7時 ところ：石垣市民会館大ホール

主 催：石垣市・財団法人自治総合センター 後援：総務省・他

石垣市男女共同参画推進条例施行を記念し、平成21年度シンポジウム助成事業を得て、活気ある協働のまちづくりに寄与することを目的にシンポジウム、講演会を開催しました。

オープニングセレモニーは、会場を一掃するかのような雄大な石垣第二中学校吹奏楽部による演奏、アトラクションに、はじけるような元気いっぱいの息吹でウインズキッズリーダーズ（オヤケアカハチ）やいま浪漫の会による演舞がありました。

シンポジウムでは、4名のパネリスト達が、それぞれの立場の現状と問題点を提起し、初めて「ワーク・ライフ・バランス」について考える機会となり、仕事、家庭の両立、今後の生き方等を真剣に考えることになったと話されていました。コーディネーターの加藤さんは、子育て、仕事、家庭で繁多中のパネリストから生の声を引き出し、聴衆者の共感を得る等、大変役に立ったシンポであったとたくさんの感想がよせられていました。

今年、ハワイ州カウアイ市（石垣市友好都市）へ交流事業で中学生を引率をした宮良さんは、現地の子ども達から、家庭でのワーク・ライフ・バランスの視点が進んでいることを体験し、今後の学校生活や家庭で活かしていきたいと話していました。

花谷さんは、家族協定を結び役割分担を行ったことで日常生活が変わっていった様子、また、農家として都会生活で疲れ果てた人たちを受け入れ、癒しの場になる農業の良さ、島の良さにふれ、心身共にリフレッシュして都会へ帰っていく人々のことを取り上げ、改めて農業の良さをアピールしていました。

城間さんは、家庭、職場、PTA活動をとおして忙しい毎日だけれども、気持ちを入れ替えバランスよく時間を調整し、ステキな生き方をしていきたいと抱負を述べておられました。また、まだまだ女性登用における世間の厳しさを訴えておられましたが、女性でもできるんだという自信と自分の活

しきいきている姿を見せることにより、家庭の理解も少しづつ変わっていったこと等、是非、今後は参画する為に女性の視点を取り入れようと積極的な女性役員の誕生を呼びかけていました。

下地さんは、事業者の立場から、現実を見極め、やれることから積極的に取り入れて気持ちいい職場づくりに努めたいと述べておられました。個人、職場、社会の3つが大きく関わっていますので、3つをトータル的に考えなければならない社会全体の問題、課題であると考えられ、今後、色々な困難を回避する一つ的手段としてワーク・ライフ・バランスの推進が考えられるであろうと提案していました。

講演会

テーマ「自分らしく生きるために」

あき ようこ
講師 阿木 燿子氏 作詞家

阿木さんは、夫宇崎竜童（ミュージシャン・俳優）さんとの出会い等を紹介しながら夫の帰宅時の「桃源郷」という合言葉、大ヒット曲の「港ヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」にまつわるエピソード、認知症になった姑との介護の体験談や人を多面的な存在ととらえる受け止め方など、作詞家として培ってきた人間観察の視点等を披露していました。また、自分で自分を育てる「育自」を提唱し、「人間は自分を丸ごと受け入れてもらいたい、愛されたいと思っている。それをたった1人、かなえてあげられるのは自分だけ」と語り、自分に「愛している」「ありがとう」「ごめんね」などと言葉をかけることを勧めていました。



平成21年度「男女共同参画週間」

石垣市男女共同参画推進条例施行記念メッセージ 『ありがとう 心からのラブレター』募集

今年石垣市男女共同参画推進条例の6月1日施行に伴い、市民への周知及び意識の啓発を目的に行いました。感謝や思いやりのことばが、よりよい男女関係、人間関係、社会をつくるものとして、身近な暮らしの中で、感激したこと、うれしかったこと、謝りたいこと、伝えたい思いなど「ありがとう心からのラブレター」、「メッセージ」を募集しました。



男女共同参画週間パネル展



男女共同参画社会基本法の公布・施行日（平成11年6月23日）を踏まえ、6月23日から29日までの一週間を「男女共同参画週間」となっています。

本市においては、男女共同参画社会基本法の概要版、石垣市男女共同参画推進条例の概要版、また、男女共同参画社会の実現に向けて「ありがとう心からのラブレター」、「メッセージ」の応募作品等の展示を行いました。

ここで、応募作品の中から数点紹介いたします。

「おかあさん、いつもごはんをつくってくれて ありがとう」

6歳 しろまはし

「わたしの家ぞくへー お父さん、お母さん いつもやさしくしてくれてありがとう。わたしは家ぞくという時が大好きです。」

8歳 紙お ゆな

「毎朝、学校へ行くとき、□おはよう！ 今日もがんばって！□と声をかけてくれる名前も知らないおじさん。今日も一日、元気でいられるのは、あなたのおかげです。ありがとう」

14歳 藤田麻吏亜

「ありがとう ほんとは心の中で思ってる 気づいてほしいけど 口に出して言ったことないから たぶん 気づいてないよね・・・。ちょっと恥ずかしいけど勇気出して言ってみる「ありがとう」

14歳 大城はるな

「お母さん、お父さん いつもいつも迷惑をかけているけど、お母さんたちがいたおかげでこんなに成長しました。本当にありがとう」

14歳 徳村 樹

「孫と遊んでいる、夫の笑顔は最高！ 若い頃の彼はマージャンにはまり毎度の朝帰り、私は不発弾を溜め込むばかりでした。でも、そんな愚痴も時効だね。男女平等の穏やかな日常、かわいい孫たちありがとう」

50歳 玉城みどり

「最近帰りが遅く君達の寝顔しか見れないけど、君達がいるからお父さんはがんばれる気がします。これからも一緒にいっぱい遊ぼうね。生まれてきてくれて本当にありがとう」

友 利 和 正

「トライアスロン大会のゴールを迎えた瞬間□ありがとう□を叫んでいた。チャレンジできた自分と応援してくれた石垣島の人達への素直な感情でした。

あふれ出る汗をぬぐっていたとき何故か、大粒の涙がボロボロとこぼれ出ました。それは久しぶりに石垣島の人々の□本物の優しさ□に触れることができたからだとわかりました。まさに人としての原点を垣間見た気がしました。

石垣島は私にとって心の故郷になってしまいました。来年の出場のために頑張っ



名古屋にて 大矢金太郎

女（みーどうん）も男（びぎどうん）もともに輝く社会へ 「市民のつどい」開催

平成21年6月1日 石垣市民会館中ホール

本市は、家庭や地域、職場のあらゆる分野において男女が社会の対等な構成員として参画し、男女がこれまでの役割にとらわれず、一人ひとりの個性と能力を十分に発揮し、安心して生きがいのある地域社会の実現を目指しています。

平成21年3月23日に石垣市男女共同参画推進条例が制定され、6月1日の条例施行に伴い市民への周知及び意識の啓発を目的に「市民のつどい」を開催いたしました。

記念セレモニーにおいて、大市長は、「石垣を男女共同参画のまちにするため、この条例に魂をいれたい」と実効性ある条例に向けて決意を述べられていました。

「市民のつどい」では、アトラクションに、テーマ「私にも名前があるのよ！」を、ユーモアな夫婦の会話を通して笑いと問題提起をおりませ、わが家の「家族協定」の締結がハッピーエンドになったという爆笑寸劇を八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会の皆さんが行いました。

記念講演では、沖縄労働局雇用均等行政協助員の大城貴代子氏による講話が行われ、現状における男女差別の例を取り上げ、それらを変えるためには、女性が物事を決定するところに、積極的に今後は入っていかなければならないと真の男女共同参画の重要なポイントを指摘しておられました。

アトラクション：

「私にも名前があるわよ！」

出演：八重山地区農山漁村女性組織連絡協議会会員

記念セレモニー



市長あいさつ



記念講演



講演：テーマ

「家庭・職場・地域で取り組む男女共同参画」
～推進条例スタート～

講師：大城 貴代子 氏

石垣市男女共同参画推進条例施行記念フォーラム

テーマ「パートナーシップで 支えあう家族」

女（みーどぅん）も男（びぎどぅん）も ともに輝く社会へ

パネリスト☆多宇司・明子ご夫妻

八重山地区家族協定第1号2008年農林水産省畜産部門で天皇杯受賞

☆比屋定和史・恵ご夫妻

畜産業でご活躍中の若いカップル



コーディネーター：岡田啓子さん

（八重山「女性の翼」の会会員）

平成21年6月28日

石垣市健康福祉センター検診ホール

主催：八重山「女性の翼」の会 共催：石垣市

条例施行を記念し、市内で活躍している2組のパートナーを交えて、フロアとの意見交換の中、活発なフォーラムが行われました。

家族協定のすばらしさ、成功例などを取り上げ、夢を語る若者達に場内からも大きなエールがおくられていました。

「女性に対する暴力をなくす運動」

11月12日（木）～11月25日

配偶者からの暴力、性犯罪、売春等、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為や人身取引等、女性に対する暴力は、女性の人権を侵害するものであり、決して許されるものではありません。

DV相談ナビ：0570-0-55210

一人で悩まないで。早めの相談が問題解決の第一歩。

配偶者からの暴力(DV)に悩んでいる方へ

あなたのお近くの相談窓口をお答えします。

・・・女性団体支援・・・

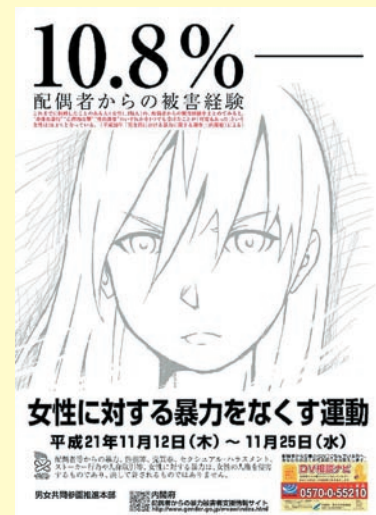
石垣市女性団体ネットワーク会議総会開催



今年は「第12回まるごーフェスティバル」に向け、新聞紙上での28団体余の活動紹介、映画「歓喜の歌」上映会の日程を決定しました。

とき：12月16日（水）午後7時

ところ：石垣市民会館 大ホール



がんばっている人たち

石垣市女性防火クラブ



「石垣市女性防火クラブ」メンバー

の絆を大切に市民の安全のため団員ともども「火災0」に向け頑張る決意を述べていました。

石垣市女性防火クラブは、平成4年に設立され、平成6年には第10回全国女性消防操法大会に沖縄代表として出場し、敢闘賞を受賞しております。

今回は2度目の出場です。また、平成14年には数々の功績が認められて日本消防協会より優良婦人消防隊表彰を受賞し、今回、第19回目の当大会において、優良賞を受賞しています。石垣市女性防火クラブ会長西表直子さんは、これからもますます団員（部員28人）

おめでとうございます

第42回沖縄県婦人の主張中央大会



後呂喜和子さん「ラジオ沖縄社長賞」受賞

長嶺良子さん「努力賞」受賞

ミスニュース《パート1》

おめでとう★
ございます★



藍綬放褒章受賞

前盛恵子氏



永年にわたり労働力調査員として周到綿密よく職務を遂行したことにより、藍綬褒章を受章されました。（平成21年4月29日）

ちなみに前盛さんは、30年余に渡る統計業務に関し、市関係調査はもとより、県、国関係の調査員として粘り強く頑張ってこられました。

おめでとうございます

旭日雙光章受賞 本盛 秀氏



沖縄県指定無形文化財「八重山伝統舞踊保持者指定」（平成16年）保持者で今回、八重山舞踊界から初の「旭日雙光章」の叙勲を受けられました。84歳とは思えぬ輝いたまなざし、張りのある声、凜とした動作には、圧倒されんばかりです。

つついのめりこむほどに相手を夢中にさせるほど、時を忘れさせて話す本盛氏の舞踊修練の話題は魅力的であり、熱い思いをずっしりと感じさせられました。

若かりし頃、西表島の生活で地域の先輩達から祭祀や日常生活等の中から、土着の踊りを見せてもらったことが原点であり、その感性と素朴さの中に、踊りの原点を見つけ出し、これらを基に、創作舞踊を手掛けてきました。語りつくせぬほどのたくさんの記憶の中から、ひも解く様に話してくださった数点、その一つに「蝶の舞」の振り付けは、夫の茂氏からおしえてもらったという、「はびるも水を飲むんだよ」と、たくさんのはびるが川辺で水をのんでいる光景を目のあたりにしたことや、猫の動作に注目した事の一つの所作が踊りに独特なリズムを生み出し、踊りのうま味としていかされていることなど・・・もっともっと聞いてみたいと思うほどの貴重な体験談を聞かせていただいた取材でした。

大家の踊りの原点は、土着の民俗踊りにあること、今回の大きな受賞は、自分ひとりのものではなく、踊りの先人達からの一つ一つに大きな教えがあり、意義があることを感謝を込めながら熱く述べておられました。

「先人からいただいた多くの踊りの手が、地域の人、仲間、生徒の皆様を开花し、八重山にすばらしい道が開けたと言うことが、大変嬉しいです。後輩のためにも古典を大事に守り、精進してほしいです。」と述べておられました。

ちなみに平成16年に沖縄県指定無形文化財に指定された当時の言葉を引用しますと、「八重山伝統舞踊は、琉球王府時代に王府の保護のもとで体系化されてきた沖縄伝統舞踊と異なり、素朴な所作と緩やかなテンポに農耕や漁労の儀礼の場で育まれた祭祀芸能の様子を色濃く残しています。その芸術性、芸術的な価値は、沖縄の伝統芸能の中でも重要なものとなっていることから、指定となりました。」と記されております。

表紙解説

「まるざー」とは、八重山方言で円座を意味します。老若男女関係なく、円座になって情報を交換したり、未来を語り合うことを象徴して命名されました。

題字は、真喜良小学校PTA 会長として活躍中の城間美喜子さんです。先日のシンポジウムのパネリストを担っていただき、仕事、家庭、PTA 役員と業務をこなす元気ハツラツの女性です。